

第 42 回黒部市教育振興協議会（会議概要）

1 日 時 令和元年 8 月 27 日（火）午後 6 時 30 分～午後 8 時 45 分

2 場 所 黒部市役所 203 会議室

3 委員・市教委事務局

委 員	選出団体	事務局	職 名
谷島 博俊	黒部市自治振興会連絡協議会	長田 行正	教育部長
白川 正秋	黒部市体育協会	高野 晋	次長・学校教育課長・学校給食センター所長
山田美穂子	黒部市農業協同組合	島崎 豊	生涯学習課長・ジオパーク推進班長
中坂 洋之	黒部市PTA連絡協議会	橋本 正則	スポーツ課長・フルマラソン推進班長
中西由美子	公募委員	中嶋ひとみ	図書館長
茶谷 涉	黒部市小学校長会長	齊藤 誠	学校教育班長
中村 靖	黒部市中学校長会長	中湊 栄治	生涯学習施設建設推進班長
		藤田 信幸	こども支援課長（幼稚園教育担当）
		輿水 一紀	学校教育課主幹
		館野 敬子	生涯学習課主幹
		能登 隆浩	スポーツ課主幹
		松平真由美	学校給食センター主幹
		前林 丈雄	学校教育課庶務係長

4 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 挨拶（教育部長）
- (3) 審 議 令和元年度教育委員会事務の点検・評価について
- (4) その他 事務連絡：次回開催日程について
- (5) 閉 会

5 会議概要（点検・評価の審査における委員からの主な意見及び訂正事項）

(1) 親子での体験事業（親子自然体験教室）（13P）・放課後子ども教室推進事業（15P）

（質問）放課後子ども教室推進事業と親子自然体験教室の事業の内容が同じに見える。その点について説明してほしい。

（回答）親子での体験事業については、県の公民館連合会が主体になっている事業になっている。そして、子ども推進事業については、地域の方が主体になって行われる事業になっている。それぞれ事業内容は似たようなものになっているが、主体が違うということになっているので、中身を少し変えながら行うことになる。

(2) 全施策

（質問）ここに載せられている項目以外にも事業等はあると思うが、ここに載せられている事業（項目）はどのようにして選ばれているのか。また、市の総合振興計画とこれらの項目とはどのような関係があるのか。

（回答）黒部市教育の方針に基づいて、各担当の課からそれに担う事業をひろって組み立てたものになる。全ての事業を網羅しているものではないが、趣旨に沿ったものを教育委員会なりにひろい説

明しているものになる。教育の方針を作成するにあたっては教育大綱が必要になる。教育大綱は市の総合振興計画に基づき作成されているものになっており、市長を含めた総合教育会議で定められ、それに基づき教育の方針を作成し、そこからこれらの項目が出てくるという流れになっている。

(3) 適応指導教室（ほっとスペース「あゆみ」）事業（18P）

(質問) 資料18ページの『適応指導教室』について、開設日は何日間あるのか。

(回答) 開設している黒部勤労青少年ホームが月曜定休のため、月曜日は休みになる。そのほかの日に関してはまた確認をして報告する。

*補足説明あり：開設日 毎週火曜日から金曜日の9時から15時
夏休みの期間は火曜日と木曜日の9時から15時
春休み・冬休み期間は開設していない

(4) 幼・保・小・中学校の連携（17P）

(質問) 資料17ページの『幼・保・小・中学校の連携』に関して、「生活科における小学校の幼・保への出前授業やオープンスクール等は、幼・小・中学校間の教員の交流を促進し」との記載があるが、小・中学校間の出前授業の記載が無くなっているが、この記載に関し何か理由があるのか。

(回答) 実際には小・中学校間の出前授業も行っている。記載漏れになるのでそれらの文章も加えておく。

(5) 奨学資金貸付・給付事業（19P）

(質問) 『奨学資金貸付・給付事業』に関して、給付事業の採択枠が8人に対し、平成30年度は9人になっているのだが、この数字の相違はどのように考えればいいのか。

(回答) 基本的に枠は8人で審査をしているが、特例のある者が1名おり、審議委員の中で何とかならないかとの話が出ていた。予算に絡んでくるのでかなり難しいと伝えてはいたが、最終的に特例として9人採用する形になった。そのため9人と記載している。

(6) 幼稚園教育の充実（21P）

(質問) 資料21ページの『幼稚園教育の充実』に関して、「点検・評価」「課題・改善」「今後の方向」の記載が平成29年度と同じ記載なのだが、何か変化等はないのか。

(回答) 昨年と全て同じ状況のため内容が同じになっているが、何か変化等がないか再度見直しを試みる。

(7) 全施策

(質問) 資料に関して、最終的に市民の皆様に公表するにあたり、専門用語的なものは分かりやすい言葉に置き換えた方がよいのでは。

(回答) わかりやすく読めるように改善をしていく。

(8) 全国学力・学習状況調査（22P）

(訂正) 「課題・改善」欄 (誤) 継年変化 ⇒ (正) 経年変化

(9) 教職員研修・研究委員会・研究指定校（23P）

(質問) 資料に関して、23ページに「悉皆」と記載があるが何と読むのか。また、どのような意味なのか。

(回答) 「細かい」と読む。「ことごとく、全て」という意味になる。

(10) 教職員研修・研究委員会・研究指定校 (23P)

(質問) 資料 23 ページに関して、ここに記載されている内容のほとんどが教育センター担当のものだと思うが、「担当課等」欄に教育センターの記載が無い。教育センターは担当課には当てはまらないのか。3 ページの行政組織の図には一つの部署として示されているのだが、どうなっているのか。

(回答) 組織的には課と並列して資料に記載されているので、教育センターの記載も加えていくようにする。ほかのページに関しても同様にしていく。

(10) 教職員研修・研究委員会・研究指定校 (23P)

(質問) 資料 23 ページに関して、「実績・成果」欄の「②研究委員会」に「社会科学研究委員会」「理科研究委員会」の記載があるが、「情報教育研究委員会」の記載が無い。「情報教育研究委員会」も存在しているはずだが、それでいいのか。

(回答) 確認をしてから記載をしていく。

(11) 学校訪問 (24P)

(質問) 資料 24 ページの「課題・改善」欄に関して、最終の行の「指導主事の増員等が求められる」の記載はよくないのではないかと削除してもよいのではないかと。

(回答) その記載に関しては削除をする。

(12) 英語サマーキャンプ (26P)

(質問) 資料 26 ページに関して、「点検・評価」欄に「例年以上に多くの参加者があり、複数回目の参加者も多かった」と記載されているが、何度も参加している参加者に圧迫され、一度も参加した経験の無い者が参加できなかったといったようなことはないのか。

(回答) 申し込みについて基本的に断ることはない。現状は希望者を全て受け入れるようになっている。

(13) 英会話科の実施 (25P)

(質問) 資料 25 ページに関して、ALT・JAT・JETの人数の記載がある方がわかりやすいのではないかと。

(回答) 資料に「ALT・7名 JAT・6名 JET・3名」の人数の記載を加えておく。

(14) 姉妹都市交流研修事業 (27P)

(質問) 資料 27 ページの『姉妹都市交流研修事業』に関して、昨年（平成 29 年）には受け入れ側のホームステイ先がなかなか無くて大変だったとの記載があったのだが、これからの課題として、こちらに来られる場合の受け入れの大変さに関する記載があるとよいのではないかと。

(回答) 基本はアメリカへ行った経験のあるご家庭に受け入れをお願いしているが、様々な事情等で全ての家庭が受け入れ可能ではない現状である。なんとか探して全員の受け入れができるよう努力している。

(15) 英会話科の実施 (25P)

(質問) 資料 25 ページに関して、「実績・成果」の欄に「中学 3 年生に対し英検補助を行っている」という記載があってもよいのではないかと。

(回答) 25 ページに関しては「英検補助を行っている」との記載を加える。

(16) 英語サマーキャンプ (26P)

(質問) 資料 26 ページに関して、「趣旨等」の欄に「中学校1年生、小学5・6年生」との記載があるが、主は小学生になるので順番を逆に記載した方がよいのでは。

(回答) 26 ページに関しては、順序を逆にして記載する。(「小学5・6年生、中学校1年生」)

(17) 姉妹都市交流研修事業 (27P)

(質問) 資料 27 ページに関して、「趣旨等」の欄にオランダとの間の生徒等の派遣に関して「対象：中学2・3年生」との記載があるが、一度も行われていないので、記載を削除してもよいのではないかと。

(回答) 27 ページに関しては、該当部分を削除する。

(18) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育 (28P)

(質問) 資料 28 ページに関して、帰国児童・外国人児童が黒部市内に来た際に、どのように対応していくかを書いた冊子が作られたはずである。もしそれが平成 30 年度のことであれば「実績・成果」欄に記載してもよいのではないかと。また、同欄に記載してある「入り込み指導や取り出し指導」という表現が不適切ではないかと。

(回答) 28 ページに関しては、冊子の作成が行われたのであれば記載をする。「入り込み指導や取り出し指導」の記載は「個別指導(教室外)」に変更する。

(19) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育 (28P)

(質問) 資料 28 ページに関して、「課題・改善」の欄に「母国語でサポートできる人材の確保」との記載があるが、人数が記載してあると、今後あとどれくらいの人数の確保が必要なのか等が分かりやすいので、記載してはどうか。

(回答) 人数を記載するよう検討していく。

*補足説明あり：外国人生徒児童生徒の在籍状況(平成 30 年度)

ブラジル 3 名・中国 3 名・フィリピン 2 名

教員対応 中国 1 名

(20) いじめ不登校対策 (31P)

(質問) 資料 31 ページの『いじめ不登校対策』に関して、いじめ認知件数・長期欠席者数が小学校・中学校のみの記載だが、幼稚園・こども園の人数も記載してはどうか。

(回答) 現状として幼児のいじめという部分を、何をもっていじめと認識するのが非常に難しく、有意のいじめとして認識しておらず、人数を把握していないため記載はしていない。日頃の保育等に気をつけて見ている状態である。また、記載に関しては、義務教育内の対策の基準で載せているので、このような記載になっている。

(21) 特別支援教育支援員(スタディ・メイト)事業 (29P)

(質問) 資料 29 ページに関して、「趣旨等」の欄に記載の「障がい」の「がい」が全てひらがなになっているのはなぜか。「ADHD(注意欠陥多動性障害)」の「注意欠陥」の後に「・(中点)」が入るのではないかと。「高機能自閉症」は「自閉症スペクトラム障がい」という言い方なのではないかと。

(回答) 「障がい」の「がい」は、漢字の「害」が不快を感じるということから、ひらが

なでの記載を推奨する流れになっているため、「がい」での表記になっている。その他については訂正をして記載する。

(22) 情報教育 (33 P)

(質問) 資料 33 ページの『情報教育』に関して、特別支援級の子どもたちがタブレットを使用して学習することが有効だと言われているが、特別支援級に在籍している子どもたちは全員タブレットを使用しているのか。

(回答) 現在は全員にではなく、1 教室単位で使用できるようになっている。

(23) 学校司書配置事業 (32 P)

(質問) 資料 32 ページに関して、「実績・成果」の欄に「図書室は悩みや支援を必要とする児童生徒が、クールダウンする場所にもなっており、学校司書はそういった面でも役立っている」との記載があるが、事実とはいえ記載するのはどうなのか。削除すべきではないか。

(回答) 32 ページに関しては、該当部分を削除する。

(24) 情報教育 (33 P)

(質問) 資料 33 ページに関して、「実績・成果」欄のパソコンに関する記載において、「オールインワン型」「デタッチャブル型」とあるが、これは分からない人も多いと思われるので、説明を加えてはどうか。また、「PC」は「パソコン」と表記してはどうか。

(回答) 33 ページに関しては、「PC」は「パソコン」に表記を統一する。「オールインワン型」「デタッチャブル型」に関しては、説明を加えて記載する。

(25) 学校司書配置事業 (32 P)

(質問) 資料 32 ページに関して、「点検・評価」の欄に「平成 33 年度・平成 32 年度」と記載があるが、25 ページでは「令和 2 年度」、14 ページでは「2022 年」と記載されている。年号の記載を統一してはどうか。

(回答) 年号の表記は統一して記載する。

(26) 体力の向上・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 (36 P)

(質問) 資料 36 ページに関して、「実績・成果」の欄に「教師」との記載があるが、「教員」の表記の方が望ましいのでは。

(回答) 36 ページの該当部分に関しては、訂正して記載する。

(27) スポーツエキスパート派遣事業 (37 P)

(質問) 資料 37 ページに関して、「実績・成果」の欄に「非常勤講師」との記載があるが、スポーツエキスパートは非常勤講師なのかどうか（部活動の指導員は非常勤講師となる）。同ページに関して、「課題・改善」の欄に「必要な部活と人員を整理する」との記載があるが、「部活」は「部活動」の表記にして、「整理」は「見直す」の表記がよいのではないか。

(回答) 37 ページの該当部分に関しては、訂正して記載する。非常勤講師については調べてから記載をする。

*補足説明あり：スポーツエキスパートは非常勤講師ではない

(28) 体力の向上・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 (36 P)

(質問) 資料 36 ページに関して、「実績・成果」の欄の文章を箇条書きの様な形で記載した方が読みやすいのでは。

(回答) もう少し文章を整理して記載するように検討する。

(29) 安全管理 (39P)

(質問) 資料 39 ページに関して、「危険性があるブロック塀の点検を行った」との記載があるが、実際に危険箇所の補修は行ったのか。

(回答) 学校施設については、13 校中 7 校にブロック塀があり、それらに対しては建築基準法に沿った対応を図ったところである。通学経路上の民間の建物による危険なブロック塀に関しては、学校に対しそういった物があるということを伝達したところである。なるべくそういった場所は通らないようにといった対応が図られていると思っている。

(30) 遠距離通学対策 (スクールバス運行事業・通学定期券補助金) (40P)

(質問) 資料 40 ページに関して、「課題・改善」の欄の「令和元年」は「令和 2 年」が正しいのでは。

(回答) 該当箇所を訂正して記載する。

(31) AED 管理事業 (41P)

(質問) 資料 41 ページに関して、「個別事業」と記載されているが、40 ページの同箇所は「個別事業名」と記載されている。どちらかに統一して表記した方がよいのでは。

(回答) 表記を統一して記載することにする。

(32) 安全管理 (39P)

(質問) 学校や登下校時、遊んでいる時などにクマを発見した場合、どのような対応を取るようになっているのか。

(回答) 現状では明確にどのように対応するかの指導はしていないが、学校の先生もしくは公安部門の方に連絡をする。その後は、学校の方からであると教育委員会に連絡が来ることがあるが、大抵は警察の方に連絡をすることになる。市役所では農林整備課に有害鳥獣対策係があるので、そちらの方にも連絡がある。連絡が来た際には早急に各学校にラジオ体操やプールの中止等の相談をすることになる。まずクマを見かけたら、すぐに警察に連絡をしてほしい。

(33) 黒部市立小中学校再編計画の推進 (44P)

* 補足説明あり：資料 44 ページ『趣旨等』の欄 最終行の表記

『生地 村椿、荻生 若栗』は『生地・村椿、荻生・若栗』の表記になる